

操縦士の皆様へ

航空局では、自家用機を含む小型航空機の更なる安全性の向上に向けた取り組みを進めております。今般、登録いただきましたメールアドレスあて、操縦士への直接的な安全啓発や情報発信の機能強化として、以下の情報を配信しますので、日々の安全運航の一助となりますようご活用いただければ幸甚です。

=====

～航空局からのお知らせ～

=====

[2017 年 12 月 27 日]

★TEM を活用してリスクを予防しましょう

航空局では、本年 3 月に開催された第二回小型航空機等に係る安全推進委員会における議論を踏まえ、TEM (Threat and Error Management) などの考え方を活用し、自らの運航をチェックすることを促進する安全啓発ポスターを作成しました。

「TEM の考え方を活用？」と聞いてわかりにくい場合は、例えば、小さな子供を乗せて車を運転している際に発生した事故の例をイメージしてみてください。

- ①子供がぐずり、
- ②ぐずる子供に気をとられ運転操作を誤り、
- ③走行車線を逸脱し、
- ④反対車線の車と衝突事故を起こしてしまいました。

TEM の考えにおいて、②の運転操作を誤る行為は「Error」、その行為を誘発する背景にある①のぐずる子供の存在が「Threat」、直ちに事故には至らないものの陥ってしまった異常な状態、つまり③走行車線を逸脱している状態が「Undesired Aircraft State」となります。

この①～③のそれぞれの段階において、適切な対策をとることができれば④の衝突事故には至らないため、あらかじめ適切な Management を発揮して Error の発生を防ぐことが大切なのはいうまでもありません。中でも特に、Error の原因となる Threat をいち早く予測・特定し排除又は対処することにより、Error の発生を抑制することが、とても重要です。

ぐずる子供に気を取られ運転を誤って (Error の発生) しましたが、子供がぐずる場合を想定し、子供に与えるお菓子を事前に用意しておけば、子供を落ち着かせ、運転を誤らずに済んだかもしれません。この「子供がぐずることを想定し、お菓子を用意しておく」ことを Threat Management といい、このような行動により、自らの Error を防止します。

TEM はこのように主に日常の運航中に潜む Threat を分析し予防対策に取り組む活動ですので、このような考え方を日々の運航 (運航前の準備) に取り入れ、自らの運航をチェックし、リスクを未然に予防しましょう。

○TEM などの考え方を活用し、自らの運航をチェックすることを促進する安全啓発ポスター

<http://www.mlit.go.jp/common/001180079.pdf>

※本メールは 12 月 26 日 (水) 時点で航空局へ電子メールアドレスを登録頂いている操縦士の皆様にお送りしております。

※所属団体等に未登録の操縦士の方がいらっしゃいましたら本メールを適宜展開いただきますとともに、今後も継続して安全情報を配信して参りますので、積極的な電子メールアドレスの登録についてご案内頂きますと幸甚です。お手数おかけしますがご協力何卒よろしくお願いいたします。

※御質問等ございましたら下記あてご連絡いただきますようよろしくお願いいたします。

※本メールに心当たりがない場合は、お手数ですが下記あてご連絡をお願いいたします。

国土交通省 航空局 安全部運航安全課

MAIL : hqt-kogataki@ml.mlit.go.jp

TEL : 03-5253-8111 (内線 50135、50136)

小型機安全担当

=====